

「第1回国連宇宙会議」開催50周年記念会合（UNISPACE+50）

ハイレベル・セグメント

山川JAXA理事長ステートメント（仮訳）

日本を代表して、「第1回国連宇宙会議」開催50周年記念会合（UNISPACE+50）ハイレベル・セグメントでの発言の機会をいただき光栄に感じています。まず、来る国連宇宙平和利用委員会本委員会にて議長を務めるロサ・マリア女史のリーダーシップを歓迎するとともに、デイビッド・ケンダル氏が昨年の委員会議長として達成した顕著な業績に感謝の意を表します。また、国連宇宙部（UNOOSA）、国連宇宙空間平和利用委員会（COPUOS）の事務局、その運営委員会であるG-15及びUNISPACE+50運営委員会各位の努力に対して謝意を示すとともに、「宇宙空間の探査と平和利用に関する第1回国連宇宙会議50周年～持続可能な発展のためのとしての宇宙」決議が承認されたことを歓迎いたします。

COPUOSにおいて、数多くの代表、加盟国、オブザーバー及び非加盟国が一同に会することは、私たちにとって大変喜ばしいことです。日本は、COPUOS新規加盟国であるバーレーン王国、デンマーク王国、ノルウェー王国、そして加盟申請中のキプロス共和国、エチオピア連邦民主共和国、フィンランド共和国、モーリシャス共和国及びパラグアイ共和国を歓迎します。

1968年に開催されたUNISPACEIは、宇宙活動がもたらす広範な社会的恩恵や生活向上の可能性についての認識を高めました。その後、私たちの宇宙への関心は拡大し、1999年開催のUNISPACEIIIでは、社会経済の発展に資する宇宙技術の大きな可能性について言及した「ウィーン宣言」を採択しました。日本は国際協力及び新興国の開発を支持しています。

UNISPACEIから50年が経過した今、私たちは宇宙空間の平和利用の青写真を描くため、このグローバルな対話の場に再び集まりました。日本は、既存の、そして新興のあるいは商業的な宇宙活動を行う全ての方々の更なる活躍のため、国際協力を推進しています。スペース・デブリ対策を含む様々な活動においても、新たなビジネスの提案が増加しています。日本は各国に対し、作業計画に基づき、「宇宙活動の長期的持続可能性ガイドライン」の協議の完結のために積極的関与を行うことを強く呼びかけます。

私たちは、2016年6月にUNISPACE+50のエッセンスを明らかにした文書である「7つの優先課題」を承認しました。それぞれの優先課題における日本の貢献は、次のとおりです。

優先課題1「宇宙探査・イノベーションのグローバル・パートナーシップ」については、日本は本年3月3日に東京において「第2回国際宇宙探査フォーラム（ISEF2）」を開催しました。45の国と国際機関の閣僚や宇宙機関長などの参加の下、ISEF2へ多くの国や国際機関から多大な支援をいただいたことに感謝いたします。ISEF2においては、「ISEF2共同声明」、「国際宇宙探査に関する東京原則」、「国際宇宙探査フォーラム（ISEF）」

運営規約」という3つの成果文書が纏められました。これらの成果文書は、国際協力や、人類に利益をもたらす長期的な宇宙探査の取組みを推進するための各国政府間対話の基盤として歓迎され、UNISPACE+50の優先課題1の報告書の中でも取り上げられました。

優先課題5の「グローバルヘルスのための宇宙協力強化」について、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）は、世界保健機構（WHO）と連携し、ポリオ根絶に取り組んでいます。ポリオは、未発達な下水道設備のもとで暮らす人々にとって脅威です。ポリオの増殖や再感染そして対策の有効性は、下水サンプルを採取して感染源となるウイルスの有無を調べることで観測可能です。ポリオの流行地域は広く分散していることから、WHOは下水採取に適した地点の絞込みを行う必要があります。こうしたWHOの業務を支援するため、JAXAは数値標高モデルと衛星画像を用いた全世界デジタル3D地図を提供しており、これにより汚染源を推定することが可能となります。この技術は現在ナイジェリアで試験されており、この協力を通じて、我が国は持続可能な開発目標（SDGs）3「すべての人に健康と福祉を」の実現にも貢献いたします。

優先課題6「低排出かつレジリエントな社会のための国際協力」について、日本のリモートセンシング衛星は、低排出かつレジリエントな社会の創出のための支援を行っています。JAXAは、米航空宇宙局（NASA）、欧州宇宙機関（ESA）、仏国立宇宙研究センター（CNES）、独ドイツ航空宇宙センター（DLR）をはじめとする各宇宙機関との協力により、温室効果ガスに関する衛星観測データや関連パラメータの活用をもって、パリ協定の実施に向けて貢献しています。さらには、本年の秋には、京都において地球観測に関する政府間会合（GEO）本会合を開催し、地球観測分野の一層の国際協力に貢献していきます。

優先課題7「21世紀の能力開発」については、日本と国連との共同イニシアチブについて紹介いたします。

ひとつめのイニシアチブは、KiboCUBEです。「KiboCUBE」は2015年9月より開始された、国連宇宙部とJAXAとの協力プログラムであり、国連に加盟している新興国の教育・研究機関に対して、国際宇宙ステーション（ISS）の「きぼう」日本実験棟から超小型衛星を放出する機会を提供するプログラムです。第3回選定の結果、モーリシャス共和国からのチームの提案を選定したことがUNISPACE+50シンポジウムの初日に発表されました。もう1つの例は、九州工業大学による「国連・日本連携の超小型衛星に関する長期奨学金プログラム」です。このプログラムは宇宙空間の平和的利用と持続的開発を実現できる将来のリーダーを育成することを目的に、大学生に対し、超小型衛星の広範な研究を行う機会を提供しています。

日本は、宇宙空間の平和利用がこの先50年の繁栄の鍵を握ると考えています。宇宙関連技術を通じて、私たちは宇宙、教育、保健、環境、衛星通信等の理解への基礎となる知見を蓄積してきました。私たちは、次の50年について話し合うために、UNISPACE+50の場に集まりました。宇宙技術は、持続可能な開発のため、今までにない挑戦を実現することが可能です。私たちは、今後も、宇宙空間の平和的利用へ積極的に関与する所存です。